No.2207　　２０２２年　７月２４日発行
日本キリスト教団　吾妻教会月報

あがつま

『わたしたちは見えるものではなく
見えないものに目を注ぎます。
見えるものは過ぎ去りますが、
見えないものは永遠に存続するからです』

（コリントの信徒への手紙Ⅱ　４章１８節）

♪賛美歌を歌おう㊷
『行けどもゆけども』

（讃美歌－244番）

この賛美歌は作詞者、作曲者ともに日本の方です。

作詞者の長坂鑒次郎（かんじろう）（1871-1962）は群馬県高崎市に生まれ、同志社神学校を卒業後、新潟、函館、岡山などで牧会し、その後、神戸女学院教授、神戸女子神学校校長、聖和女子学院神学部長などを歴任しました。

長坂は新潟で奉仕をしていた頃、宣教師クララ・ブラウン（後に長坂と結婚した長坂クララ）の少年讃美歌集の編集に協力して、賛美歌の翻訳、および、創作にあたりました。この賛美歌は１９５１年の讃美歌懸賞募集に応募当選したもので、彼の最後の作品となりました。

作曲者の小山章三（1930-2017）は長野県丸子町の商家に生れました。丸子実業高校で農業土木を学びましたが、上京して国立音楽大学に入り、同大学の音楽教育科第一回卒業生となり、卒業後、玉川学園高等部で教鞭をとりました。

「ＣＯＭＥ　ＴＯ　ＭＥ」と題されたこの曲は、小山が国立音楽大学在学中に作曲し、讃美歌作曲の懸賞募集に応募して入選しました。

苦しみうめくような前半部は短調で、暗闇に指す光のような救いの御言葉の後半部を長調で構成するこの賛美歌は、歌い手や聞き手に自らの救いの体験を思い起こさせるのではないでしょうか。

（稲垣）